[四街道市]　四街道市社会福祉協議会



高校と市社協が連携・協働しながら3年生の授業を継続的に実施

四街道市は都心からも千葉市中心部からも近く、利便性の高い立地であることからベッドタウンとして発展してきました。市内には4つの高校（県立2校、私立2校）がありますが、四街道市社会福祉協議会（以下、四街道市社協）は、県立四街道高等学校（以下、四街道高校）と連携・協働しながら、選択科目の年間プログラムを作成したり、外部講師をコーディネートしたりしています。

市社協が外部講師をコーディネート

四街道高校はＪＲ四街道駅から徒歩10数分の場所に建ち、周囲を文教施設や緑豊かな公園に囲まれ、目と鼻の先に四街道市社協があります。

今回紹介する取り組みは、四街道高校と四街道市社協が連携・協働しながら進めている家庭科の「生活産業基礎」の授業です。



四街道高校　新谷亜季先生

保育や介護、看護といったヒューマンサービスを目指す生徒のための３年生の選択科目で、週２日、定員18名で実施しています。選択者の多くが児童福祉を始めとする福祉系に進みます。



一年間の授業の中で、地域の児童福祉施設、高齢者福祉施設、障害者福祉施設などで働く専門職の方を外部講師として招き、実践を交えた授業を展開しています。しかし地域の専門職とのつながりが希薄な高校は、外部講師を招聘する術がありません。そこで科目の創設当初から四街道市社協が高校側といっしょに年間プログラムを作成し、外部講師のコーディネートは社協職員が中心的に担っています。

福祉教育パッケージ指定でつながった関係を大切に

市社協と高校が連携するきっかけは、平成23年度から３年間取り組んだ「福祉教育パッケージ指定」です。四街道高校は「福祉教育推進校」の指定を受け、部活動の生徒が得意分野を活かして地域活動に参加するといった活動を展開しました。そのパッケージ指定が終了した後も、市社協職員が広報紙を学校に直接届けたり、生徒に向けて市社協のイベントに出演依頼をするなど、高校とのつながりが途切れないように努めてきました。

そのような関係を続けるなか、５年前、四街道高校から新設する「生活産業基礎」への連携・協働の依頼があったといいます。科目を新設した背景には、卒業後に福祉系の学校に進学しても「思い描いていた内容と違う」と、中途退学する卒業生がいたことから、高校在学中に、福祉の仕事の現場について学んでほしいという先生方の思いがありました。

この授業の中で福祉の現場の第一線で働く保育士、介護福祉士、作業療法士、管理栄養士などの講話を聴くことで生徒たちは、仕事の楽しさやりがいだけでなく、難しさ、厳しさなども知ることができます。また、「福祉の現場ではこんなにたくさんの職種があるのだ」ということを学んだり、「大学ではこんなことを勉強したい」と明確な目標をもつ生徒も出てきました。

また、作業療法士の協力のもとで、実際に介護レクリエーションを運営するといった実践的な授業や、地域包括支援センターによる認知症サポーター養成講座も実施しました。

卒業生の手も借りながら夏休みにボランティア活動

四街道市社協の豊田紀幸さんは「社協が協力するからには、地域とのかかわり、支え合いという視点も盛り込みたい」と考え、授業のなかで自ら講師役となって社協の取り組みやボランティア活動、コミュニケーションの取り方などについて話しています。

また、この授業の選択者は、夏休み期間中、四街道市ボランティアセンターを介してボランティア活動を体験します。活動の前と後に生徒を集めて座談会を開き、ボランティア活動に対するイメージがどう変わったかを話し合いますが、最初は「ボランティアは身を削ってやるもの。大変そう」と考えていた生徒たちが「自分の得意なことを行うことで喜んでもらえる」「いろいろな出会いがあって楽しい」と身近なものとして、捉えることができるようになるといいます。



ボランティアセンターにて相談中



夏休みのボランティア活動

座談会には、「生活産業基礎」を選択していた卒業生のうち、ボランティア活動を継続している先輩も参加して、自分のボランティア経験などを披露します。

四街道市社協はさらに、全校生徒に向けた「ボランティア説明会」も実施。多くの生徒がボランティア登録をして地域で活動しています、中には地区社協の活動に継続的に参加している生徒もいるそうです。

「生活産業基礎」の主担当教員の新谷先生は「インターンシップなどを通して生徒にボランティア体験をさせたくても、学校側の業務負担が大きく難しいのが現状です。市社協さんにお任せできるので、助かっています」と話します。

自分の興味・関心に沿ってテーマを決めて発表する

一年間の授業の集大成となる三学期の発表会を取材させていただきました。これまでの授業のなかで自分が興味をもったことをテーマに選び、研究発表を行う授業です。

「幼児食について」というテーマで発表した生徒は、児童福祉施設でボランティア体験をした際、野菜嫌いの子どもが多いことが気になりました。そこで嫌いになる理由を検証し、好きになるための改善策を提案。野菜を使った手作りおやつを実際に作って持参し、ほかの生徒に試食してもらっていました。

そのほか「地域包括ケアシステムについて」というテーマでパワーポイントを使って発表を行う生徒もいました。「一年間の授業を通して、生徒は人前で話す力をつけていきます」という新谷先生の指摘通り、どの生徒も限られた時間のなかでわかりやすく、よく通る声で伝えていました。

高校生が担い手として地域で活動するきっかけづくり

「生活産業基礎」の連携・協働の取り組みは、市社協にとっても大きなメリットがあると豊田さんはいいます。「高校生のみなさんが社協についての理解を深めるとともに、地域とのかかわりに関心を持つようになりました。ボランティア活動を継続的に行ってくれる生徒も増えています」

四街道市社協は、県立四街道北高等学校とも連携して「高校生の子育てサロン」を開催しています。これは北中地区社協のバックアップのもと、生徒がサロンスタッフとなって読み聞かせなどを行っています。

また「学生アーティストフェスティバル」は、若者にボランティアを身近に感じてほしいという思いから始まったイベント。市内の中・高校生・大学生が歌やダンス、落語など自分の得意なことを披露して、人を楽しませる喜びを体験し、地域の行事や福祉施設のお祭りでのボランティアにつなげています。

豊田さんは「私たちは学生も、地域の活動を担う一市民と捉えています。これからもいろいろな形で地域活動ができるきっかけをつくっていきたい」と考えています。



四街道市社協のみなさん

※四街道市人口：93,276人　65歳以上人口：26,446人　高齢化率：28.4%（平成30年4月1日現在）

〔平成31年1月取材〕